

ACT2024から 2025へ！



学 長

末 武 義 崇

後援会の皆さまには、日頃より本学の教育・研究に対し、深いご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。地方の私立大学を取り巻く環境は、より一層厳しさを増しておりますが、困難を乗り越えるべく、大学全体で努力を重ねております。

ページにおいても公開しました。今年度も、これら三つの柱を発展的に継承し、「ACT 2025」としてアクションプランを継続して参ります。今回は、昨年度年間の主な実績について、それぞれの柱に沿って報告いたします。

昨年度は、久々に大学のホームページをリニューアルし、学長としてのアクションプラン、「ACT 2024」を公表させていただきました。"カーボンニュートラル(CN)"に繋がる教育"、"デジタルトランスフォーメーション(DX)"に繋がる教育"、"国際交流に繋がる教育"の三つの柱を主軸としたアクションプランです。昨年度の「足利大学後援会会報 第六十七号」においては、これら三つの柱に関する直近の情報を整理し、それぞれの情報についてお伝えしました。同様の内容を大学のホーム

まず、「ACTION 01 CN(SDGs)に繋がる教育」です。地域貢献も兼ねた活動として、大学コンソーシアムとちぎ関連の活動を継続しております。昨年は、コンソーシアムを通じていただいた栃木県からの補助金を活用し、本学主催のシンポジウム「知って得するCNの正しい知識」を開催しました。CNに関する教育・研究に携わっている本学教員による講演だけでなく、学生発表も交え、充実したシンポジウムを開催することができました。

データサイエンス・AI教育に関する優れた教育プログラムに対する文科省の認定制度、MDASHが令和三年度からスタートしております。足利大学は認定開始年度から、工学部、看護学部共に「リテラシーレベル」の認定を受けております。加えて昨年度、工学部が上位レベルの「応用基礎レベル」の認定を受けることができました。同時に、足利市内の企業のDXをお手伝いするゼミ科目「地域DX化教育プロジェクト」を、足利商工会議所のご協力の下に実際にスタートさせることができました。

三つ目の「国際化に繋がる教育」については、恒例となっている米国イリノイ州立大学スプリングフィールド校(UIS)や台湾の中華医事科技大学(HWAI)との短期交換留学を継続し、学生交流を深めました。さらに昨年は、中国の姉妹校、浙江工業大学に本学サッカー部の学生を派遣し、浙江工大サッカー部との親善試合を行いました。因みに、本学サッカー部は、今年度の天皇杯栃木県予選において準決勝まで駒を進めることができました。

今後、"三つの柱"を軸に、学長としてのアクションプランを精力的に遂行して参りますので、注目していただきたいと思います。

学生の多様な力を育むべく、後援会の皆さまのご理解とご協力を、宜しくお願い申し上げます。

ACT2025に基づいた 工学部の取り組み



副学長兼工学部長

安 藤 康 高

後援会の皆様には、平素より教育、研究、就職に関するご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

2024年度は、対面授業に戻って二年目を迎え、大学もコロナ禍前の活気が戻って参りました。十一月に開催されたわたらせ祭も、引継ぎが完全に途絶えた状態から再開した2023年度の実行委員による後輩への引き継ぎと2024年度実行委員の尽力のおかげで、期間中には正門前まで人で込み合うほど盛況となる時間もあり、成功裏に終了致しました。

本年度も、学生総会、学生交流会、工学部オープンキャンパスなどの行事が既に開催されました。工学部オープンキャンパスでは、午後

に実施した在学生と参加者とのパネルディスカッションが、参加された方々から高い評価を頂き、本学を学外の皆さんにお伝えする事ができました。

教育については、よりよい教育を提供すべく、末武義崇学長が提唱するアクションプラン「ACT2025」に基づいた教育コンテンツ作成及びシステムの構築に教職員一同努めております。「ACT2025」は、昨年度のアクションプラン「ACT2024」同様、「デジタルトランスフォーメーション(DX)」、「カーボンニュートラル(CN)」、「国際交流」の三つの柱を主軸に進めておりますが、2024年度にD

Xに関する文部科学省認定プログラム「MDASH」及び、「CN教育プログラム」の全科目が完成年度を迎えたことから、より信頼性の高いプログラムとして学外からも評価される形でスタートを切ることができました。ちなみに、2024年度の「MDASH」合格者は、「リテラシーレベル」227名、高度な教育が行われる「応用基礎レベル」71名であり、いずれの合格者も文部科学省が承認する認定証が授与されます。「応用基礎レベル」は、全国でも92校（うち私立大学では38校）しか認定されていないプログラムであり、合格者は全国的にみても高度な知識を身につけているといえます。また、CN教育プログラム合格者は、大学独自の認定証が授与されます。

その他の特筆すべき事項としては、2025年度に新設された「ライフデザインコース」が挙げられます。「ライフデザインコース」は、地域と協働した「まちづくり」と、DXに繋がるPBL（課題解決型学習型）科目をカリキュラムの主軸に置いたコースで、コース配属者は地域協働プロジェクトにも配属され、大学の授業及びプロジェクトの活動を通じて工学の知識を身につけて頂くプログラムになっています。現在、「地域DX」、「ま

ちづくり」の二つのプロジェクトが立ち上がっており、2025年度入学生にはこの二つのプロジェクトのどちらかを選択して頂く事になります。プロジェクトリーダーは、「地域DX」プロジェクトを平石広典教授（システム情報分野との兼務）、「まちづくり」プロジェクトを大野隆司教授（建築土木分野との兼務）が担当致します。平石教授は、2024年にあしかが産学官連携授業に採択された「地域DX化教育プロジェクト」の提案者であり、現在も足利市、足利商工会議所と連携し当該プロジェクト及び地域の発展に尽力されています。大野教授は、まちづくりの専門家であり、大野教授が参加している大学地域連携活動事業『「竹あかり」イベントによる足利

まちなか」にぎわい創出』プロジェクトが令和6年度足利市建築・景観賞（まちなみづくり部門）を受賞するなど、その活動が高く評価されています。

以上、簡単ではございますが、工学部を中心に本学の近況を報告させて頂きました。今後も学生の皆さんに充実した学生生活を送って頂けるよう、努める所存にございますので、後援会の皆様のご理解とご協力の程宜しくお願い申し上げます。

後援会の皆様には、日頃より看護学部の研究のご支援を賜り誠にありがとうございます。看護学部長を務めます青山でございます。本年度、本学部は開設して十二年目の節目の年を迎えました。足利・佐野地域唯一の私立大学看護学部として、あらためて本学部の使命は大きいものと考えております。

看護を取り巻く社会状況をみると、少子化・高齢化の進展のほか、看護職への期待は人々が住み慣れた地域で最後まで自分らしく生活し、命を全うする、誰しもが望むことに寄り添うことです。そのため

に本学の使命は、建学の精神のもと看護師保健師養護教諭の人材育成に邁進することであり、ポストコロナの時代においては、ICTを活用した看護学教育に取り組み教育の質向上が求められています。本学部の取り組みをご報告いたしますと、本年三月に八期生を輩出し

同窓生は六〇〇人以上、本県内就職者の割合は半数、実習病院への就職が多く地元志向が伺えます。四月は十二期生を迎え、看護職を目指して志し高く入学した七十九名一人ひとりは目標に向かって着実に歩みを始めております。本学の建学の精神である「和を以て貴しと為す」を基本としたカリキュラムを編成、大学生活が有意義であるように学年ごとに学修の進捗に合わせた仏教行事、キャリア支援等を計画実施しております。

令和四年度から開始した年次在宅看護論実習は、仏教和合会の協力を得て、大学周辺の地域探索・寺社訪問を行い地域の人々の健康や生活に関心を寄せる看護学の初めの実習です。これをきょうかけに、看護学を学ぶ魅力を探求することができると考えます。五月には足利赤十字病院の病院祭に看護学生ボランティアとして二年

次生が参加する機会をいただきました。昨年度に引き続き地域住民とのふれあいや病院スタッフと一緒にイベントに取り組み、地域連携・地域貢献をする貴重な体験となりました。本学卒業生とともに活動できましたことは、先輩後輩のつながりや足利赤十字病院との連携強化にもなります。



看護学部長

青山 みどり

「看護学部開設 十二年目の節目に」

近年、看護学の学修環境はICT教育を取り入れており、コロナ禍を経て学修してきた学生にはデジタルの活用は当然のことのようです。本学は次年度から電子テキスト導入のため準備を進めています。教育機関では様々な取り組みが企画された看護職の養成、保健医療福祉の現場ではDX化は業務の効率化を図り人材不足を補っています。いずれも教育の質の確保、医療や看護の質を確保のための方策であると思われます。本学においても次なるステップの足掛りになればと考えております。本学部の教育研究の充実に精一杯努めてまいりますので、ご理解・ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

以上簡単ではございますが、近年の看護を取り巻く社会状況、看護学部の近況についてご報告いたしました。今後とも、後援会の皆様におかれましては、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

工学部教務の取り組み



工学部 教務委員長

加治屋 大介

後援会の皆様には、平素より本学の教育活動に対し格別のご支援を賜り、心より御礼申し上げます。本学は、学校法人として築き上げてまいりました二〇〇年の伝統を、次の世代へと着実に継承すべく、今後も教育に真摯に取り組んでまいります。

令和六年度における工学部の主な新たな取り組みについて、以下の三点をご紹介します。

①カーボンニュートラル教育プログラムの導入「基礎」「心得」の三段階から成るモデルカリキュラムを新たに整備いたしました。

②「年次教養科目」として「英語コミュニケーション」「科学英語」「基礎物理実験」「基礎化学実験」を新規開講いたしました。

③専門科目には、「風力発電工学概論」「機械分野基礎」「地域DX化教育プロジェクト」を新設いたしました。これらの施策により、環境・エネルギー分野に関する工学的教育の充実を図

るとともに、現代社会の要請に応える語学教育の強化にも努めております。

二点目は、「地域DX化教育プロジェクト」の推進です。本プロジェクトは、工学部の全分野（機械、電気電子、システム情報、建築・土木）を対象とする専門共通科目として実施しており、実社会の課題に取り組む実践的な情報教育を通じて、地域社会のDX化を促進し、地域貢献を目指すものであります。学長のリーダーシップのもと、システム情報分野の平石広典教授を中心に準備が進められ、令和六年五月二十日には、足利市役所において足利市・足利商工会議所・足利大学による「あしかが産学官連携事業合同記者会見」が開催されました。

後期には十一件のプロジェクトが実施され、令和七年三月二十八日には、足利商工会議所において「地域DX化教育プロジェクト成果報告会」が開催されました。報告会の様子は、本学ホームページにて写真付きでご覧いただけます。本プロジェクトの実施に際し、多大なるご協力を賜りましたあしかが産学官連携推進センター、足利商工会議所、足利市ならびに参画いただいた事業者・関係各位・地域の皆様に、厚く御礼申し上げます。

三点目は、ライフデザインコースの新設です。本コースは、地域団体・企業等との協働による地域創生型課題解決学修を推進することを目的に、令和六年度に設置準備が進められ、令和七年四月に第二期生を迎える運びとなりました。一年次には「ライフデザイン基礎」「PBL基礎論」等履修し、二年次には「地域協働型PBLⅠ」、三年次には「地域協働型PBLⅡ」へと進みます。学生は、「まちづくり」「ものづくり」「スポーツによる地域貢献」などをテーマに、自ら課題を発見・解決する力を育むことを目指します。

看護学部の指定規則改正における教育課程



看護学部 教務委員長

沼田 加代

平素より、後援会の皆様から、ご支援ご鞭撻を賜り、厚く御礼申し上げます。

看護学部は、保健師助産師看護師学校養成所指定規則（以下、指定規則と記載いたします）に基づき、カリキュラムが構成されております。この指定規則は、現四年生が入学する年度から、新たな指定規則となっていました。この指定規則の改正にあたっては、現代の社会と医療の趨勢を鑑みて、大学在学中の四年間に修得すべき能力と卒業後にも自分で学修した知識・技術を統合していく力を獲得できるように構成されています。

さらに、現代の超高齢化社会および看護の提供の場が病院や在宅医療など多様化していることから、各大学独自のカリキュラム運営も可能となりました。本学は、地域の保健医療人の育成と多様な場における保健・医療の提供ができる看護専門職の育成方針を掲げており、新カリキュラムにおいてもこの育成方針を継続しています。

大学の四年間で、学生達は、看護実践能力を高めていけるよう、授業の形態は講義と演習、実習となっています。特に、看護学部では、演習や実習を通して、人間関係の形成過程も中核に、看護専門職としての技能を高めていけるようなカリキュラム編成となっています。さらには、大学四年間で得た看護基礎能力を看護師国家試験および選択により保健師国家試験の受験において、発揮し、国家試験合格により資格取得となります。

看護生涯学習ともいわれており、資格の取得後も就職した職場において、キャリアを積み上げていく自己研鑽が必要とされています。卒業後はなお一層、大学四年間で得た知識や技術を基盤に、自分自身で物事を考えて組み立て、学修した知識や技術を活かしていくことが求められています。

学生各自が、看護専門職の出発点ともなるべく看護基礎能力を四年間で修得することを目指し、さらには、卒業してから社会で活

躍できるよう、教職員は「丸」となつて教育活動に尽力していく所存です。そのためには、看護学部は、大学四年間の集大成ともいえる四年次二月には、国家試験の受験があります。四年次の早い時期から、国家試験の合格に向かって、学生達

は日々、勉学に励みたまぬ努力をしています。学生達にとって大学の学びが有意義となるよう、そして、最終的に国家試験合格を獲得できるよう、今後とも後援会のご協力と保護者様のご支援を、引き続きよろしくお願い申し上げます。

工学部における 学生支援の取り組み



工学部 学生指導委員長

根本 泰 行

後援会の皆様には、日頃より学生活動に様々なご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、コロナウイルスによるパンデミックも一段落し、ようやく以前の生活が戻ってきました。マスクをした学生の数も大分少なくなり、授業も通常通り行われています。学生のクラブ・サークル活動も、徐々に活性化しているように見受けられます。

しかしながら、学生たちの話によく耳を傾けてみると、実はまだその傷跡が残っていることがわかります。学内の立ち入り制限やクラブ・サークル活動の禁止が長く続いたことで、「上級生の

部員数が少ない」「先輩たちから引き継がれるはずの情報が失われてしまった」などの声がよく聞かれます。このような中、学生たちは自らの力で、失われた「本来そこにあるべき日常」を取り戻そうとしています。

私たち工学部学生指導委員会の役割の一つは、こうした学生の自主的な活動を支援することにあります。委員会では学生の声を聞きながら、日々のクラブ・サークル活動、学生自治会主体で開催される学生交流会・球技大会、そして活動の集大成となるわたらせ祭（学園祭）など、様々な学生活動のサポートを行っていま

す。昨年度は「学生活動への参加者を増やしたい」「Wi-Fiをもっと使いやすくしてほしい」などの要望を受け、オンライン連絡・掲示システムの構築や、学内無線LANの増強といった対応を行いました。また、昨年度、スクールバスならびに体育館の冷水器・製氷機を新規導入しましたが、これらは後援会の皆様のご支援によるものであり、現在、多くの学生が恩恵を受けております。

このほか、教務課・保健室・学生相談室などと連携し、欠席が多い学生に対する就学支援や、心身に問題を抱える学生に対する保健指導・カウンセリングを行っています。さらに、頑張った学生がいれば表彰し、問題を起こす学生がいれば適切な指導を行い、更生に導くのも委員会の役割となります。

なお、本学では、毎年九月と三月に、学生・保護者の皆様と教員が面談する教育相談会を実施しております。保護者の皆様にはぜひご来学いただき、学生の皆さんの大学での様子や、ご家庭での過ごし方について情報交換させていただければ、と存じております。

学業に加え、クラブ・サークル活動などの充実により、学生の皆さんには卒業時に「足利大学に入学してよかった」と思ってもらえるよう、委員会としても努力して参りますので、今後とも後援会の皆様からの変わらぬご支援をお願い申し上げます。

学生指導・支援の取り組み



看護学部 学生指導委員会 委員長

齋 藤 みどり

後援会の皆様には、日頃より本学看護学部の教育活動に対し、温かいご支援とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が「五類感染症」に移行した現在も、臨床の現場では感染予防対策が求められています。本学でも、学生指導委員会を中心に、手洗いやマスク着用の励行など、基本的な感染対策を継続して学生に指導しています。

学生指導委員会では、「安心・安全で充実した学生生活の実現」を目的に、アドバイザー制を導入し、学生一人ひとりと定期的に面談を行い、学修面・生活面のサポートを行っています。さらに、各学年には二名のクラス担任を配置し、教職員全体で学生の成長を見守る体制を整えています。

保護者の皆様との連携も大切にしており、年間三回の保護者相談会では、学生・保護者・アドバイザー・オブザーバーによる四者

面談を実施しています。六月には四年生を対象とした保護者説明会を、十月には国家試験対策に向けた個別面談を予定しており、年度末には成績不振の学生を対象とした面談も行います。保護者説明会は録画配信を活用し、保護者の皆様のご都合に合わせて視聴できるよう工夫しています。

一年生には、悪質商法や契約トラブルを未然に防ぐ「消費者カレッジ」を対面で実施しています。さらに、SNS上で加害者にも被害者にもならないための情報モラル教育を行い、デジタル社会での責任ある行動を身につけるよう指導しています。あわせて、災害時対応や金銭管理に関する情報提供も行い、生活全般のリスク管理能力を育んでいます。

また、倫理観を深める教育的行事として、四月には年生が「釈尊降誕会」に参加し、思いやりや配慮の大切さを学びました。三年生は臨地実習に向けて「誓

願式」を実施。後期には二年生が「成道会」、四年生が「涅槃会」に参加し、国家試験合格を祈念します。

今後本学では、保護者の皆様と連携しながら、学生が安心

して学び、心身ともに成長できる教育環境づくりに努めてまいります。引き続き、変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

就職支援の

取り組みと現状



キャリアセンター委員長

仁田 佳 宏

企業をつなぎ、希望にあった就職を実現するための従来からのきめ細やかなサポートを続けております。

三年生のキャリア科目として単位認定する夏季休業中の長期インターシップでは、足利商工会議所との連携を強め、地元企業との長期インターシップも積極的に進めております。インターシップに参加した学生は、現場での作業を通して学んだことをまとめた日誌について、企業様からはご評価を頂いております。

工学部では、十月十五日及び十一月十四日に、東京方面二五三社、足利方面三七社の企業様にご参加頂き、教員と面談を行う、就職情報交換会を開催いたしました。

十二月三日に釈尊成道会法要

及び特別講演会を開催いたしました。特別講演会の講師にアキレス株式会社、足利総務部部長兼労務課課長 三品文彦様、本社から人事総務部人事課主任 余田圭様を招き、「働くとは」と題して講演頂きました。学生は熱心に聴講し、そして講演後に質問し、就職活動の本格的なスタートに向けて良ききっかけになったと思います。

「学内企業発見セミナー」を二月十八日・十九日の二日間において、コロナ禍後初めて対面で開催いたしました。延べ二六〇社の企業様にご参加いただき、二年生、三年生、修士二年生(留年生含む)が参加致しました。学生は、熱心に説明を聞き、活発に質問している姿を頼もしく感じました。

看護学部では、例年通りに進路ガイダンスを三年生に三回、四年生に二回実施し、キャリア講座を一年生に一回、二年生に一回実施しました。十月四日には、実習病院就職説明会を対面で開催し、七施設より説明を頂きました。三年生七十五名が参加し、高い満足度が得られました。

その他に、学生の資格取得支援や「保護者のための就職ガイドブック」の制作を通して、学生の就職活動を支援することができました。

すべての学生が希望の企業に就職できるように、後援会の皆様と共に、学生と教職員が引き続き連携できればと考えております。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

後援会の皆様には、日頃より本学学生の就職支援に関しまして、多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございます。本年度より、キャリアセンター委員長となりました仁田でございます。昨年年度の内定率(留学生を含む)は、工学部が九十六・八%(就職者数二四名/就職希望者二二名)、大学院修士課程八十八・二%(就職者数十五名/就職希望者十七名)、看護学部一〇〇%(就職者数七十一名/就職希望者七十一名)となりました。

大きく変化し、説明会や採用選考はオンラインと対面が併用されるようになり、その状況は変わらず現在に至っております。また、昨年度は就職活動の時期が早まり、企業によつては三年生後期の九月より、就職選考が始まる場所も出ております。このような状況のもと、学生は就職活動を行い、前年度と同様に多くの内定を得ることが出来ました。これも後援会の皆様のご支援あつてのもの、重ねて厚くお礼申し上げます。

昨年度も、「キャリアブリッジ・プログラム」と称した教員とキャリアセンターが連携して学生と

令和7年度 足利大学後援会役員一覧

	役職	氏名	学生所属	学年
1	会長	坂本 雅俊	電気電子	3
2	副会長	栗田 京子	建築・土木	3
3	副会長	阿部 誠	システム情報	2
4	会計	刑部美稚子	看護	2
5	監事	上野ゆり子	看護	4
6	監事	大野 晴代	システム情報	3
7		岡田 誠	電気電子	4
8		福地めぐ美	電気電子	4
9		八幡 孝行	電気電子	4
10		木村 沙織	システム情報	4
11		町田 忍	システム情報	4
12		櫻井 麻美	システム情報	4
13		相澤美佐子	建築・土木	4
14		若井 周平	看護	4
15		幸田 薫	看護	3
16		小林 広美	看護	3
17		源田 卓也	システム情報	2
18		川上千賀子	建築・土木	2
19		川田 高弘	建築・土木	2
20		上岡 太	看護	2
21		川村 千恵	看護	2
22		天谷 怜実	システム情報	1
23		川澄由紀美	システム情報	1
24		柳澤 光子	システム情報	1
25		齋藤理絵子	建築・土木	1
26		青木ユミ子	看護	1
27		渡辺由美子	看護	1

令和6年度 足利大学後援会収支決算書

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

収 入 の 部

(単位 円)

科 目	予 算 額(A)	決 算 額(B)	差異(B)-(A)	摘 要
繰 越 金	37,580,284	37,580,284	0	
会 費	28,725,000	28,975,000	250,000	1,159名分(@25,000円)(工学部856名、看護学部303名)
雑 収 入	300,000	327,480	27,480	学生災害傷害保険異動返還金 77,490円 クラブ援助金返金 249,990円
積立金取崩	30,000,000	30,000,000	0	積立金取り崩し30,000,000円
計	96,605,284	96,882,764	277,480	

支 出 の 部

(単位 円)

科 目	予 算 額(A)	決 算 額(B)	差異(B)-(A)	摘 要
1 運 営 費	2,800,000	1,990,411	△ 809,589	
会 議 費	1,400,000	957,652	△ 442,348	後援会総会・理事会等諸費用・退会役員記念品
事 務 費	500,000	330,000	△ 170,000	事務費一般
印 刷 費	250,000	177,732	△ 72,268	封筒2,000枚・後援会報1300部 他
通 信 費	650,000	525,027	△ 124,973	後援会総会通知発送費 1347通 他
2 学生助成費	27,500,000	6,997,350	△ 20,502,650	
学生研究補助費	500,000	338,474	△ 161,526	研究に係る交通費・学会登録費等
クラブ援助費	11,000,000	2,407,635	△ 8,592,365	参加費・連盟費・交通費・消耗品等
学生活動費	10,000,000	256,821	△ 9,743,179	わたらせ祭
卒業記念費	4,000,000	2,748,000	△ 1,252,000	卒業アルバム
保 険 料	2,000,000	1,246,420	△ 753,580	学生災害傷害保険料
3 教育助成費	45,000,000	39,256,321	△ 5,743,679	
就職推進補助費	2,000,000	499,645	△ 1,500,355	成道会・就活支援
厚生事業費	3,000,000	1,529,952	△ 1,470,048	資格取得支援・検査費用補助・朝食サポート
教育環境援助費	40,000,000	37,226,724	△ 2,773,276	宿泊補助・紅白幕・バス・製氷機・冷水機
4 慶 弔 費	300,000	79,800	△ 220,200	入学式等献花代 香典 他
5 雑 費	100,000	0	△ 100,000	
6 積 立 金	20,000,000	20,000,000	0	
7 予 備 費	905,284	0	△ 905,284	
8 繰 越 金	0	28,558,882	28,558,882	
計	96,605,284	96,882,764	277,480	

積立金の部

(単位 円)

前年度繰越金	40,000,000
一般会計より	20,000,000
合 計	60,000,000
支 払 金 額	30,000,000
残高(繰越金)	30,000,000

上記のとおり相違ありません。

令和7年3月31日

足利大学後援会 会計 大 野 晴 代

監査の結果、上記のとおり相違ありません。

令和7年5月24日

足利大学後援会 監事 田 中 貴 子
監事 若 井 周 平

令和7年度
足利大学後援会予算書
(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

収入の部 (単位 円)

科目	本年度予算額(A)	前年度予算額(B)	増減(A)-(B)	摘要
繰越金	28,558,882	37,580,284	△ 9,021,402	
会費	25,475,000	28,725,000	△ 3,250,000	工学部714名分、看護学部305名 (@ 25,000円) ※5月在籍数、休学・留学・留年除く
雑収入	300,000	300,000	0	
積立金取崩	0	30,000,000	△ 30,000,000	
計	54,333,882	96,605,284	△ 42,271,402	

支出の部 (単位 円)

科目	本年度予算額(A)	前年度予算額(B)	増減(A)-(B)	摘要
1 運営費	2,400,000	2,800,000	△ 400,000	
会議費	1,000,000	1,400,000	△ 400,000	後援会総会・理事会等諸費用
事務費	500,000	500,000	0	事務費一般
印刷費	250,000	250,000	0	後援会報発行印刷代 他
通信費	650,000	650,000	0	後援会総会通知発送費・後援会会報 発送費 足利大学通信発送費 他
2 学生助成費	17,000,000	27,500,000	△ 10,500,000	
学生研究補助費	500,000	500,000	0	卒業研究等補助
クラブ援助費	5,000,000	11,000,000	△ 6,000,000	クラブ活動援助費
学生活動費	5,500,000	10,000,000	△ 4,500,000	学生自治会援助金・わたらせ祭運営補助 他
卒業記念費	4,000,000	4,000,000	0	卒業記念アルバム作成費
保険料	2,000,000	2,000,000	0	学生災害傷害保険料
3 教育助成費	8,000,000	45,000,000	△ 37,000,000	
就職推進補助費	2,000,000	2,000,000	0	就職関連補助
厚生事業費	3,000,000	3,000,000	0	朝食補助・情報処理資格試験補助 他
教育環境援助費	3,000,000	40,000,000	△ 37,000,000	学内ベンチ整備・クラブWi-Fi通信補助
4 慶弔費	300,000	300,000	0	入学式献花・香典 他
5 雑費	100,000	100,000	0	
6 積立金	20,000,000	20,000,000	0	
7 予備費	6,533,882	905,284	5,628,598	
計	54,333,882	96,605,284	△ 42,271,402	

積立金の部 (単位 円)

前年度繰越金	30,000,000
積立金取り崩し	0
一般会計より	20,000,000
合計	50,000,000

令和六年度は、学生活動がより一層活発に行われ、大学祭「わたらせ祭」も昨年度に引き続き全面対面で開催されました。わたらせ祭実行委員会を中心に様々な企画が計画され、学生が「丸」となって創り上げた結果、多くの来場者を迎えることができました。後援会としても模擬店を出店していただき、学生と共に祭を盛り上げていただきました。

学生生活の支援としては、大前キャンパス(工学部)において、後援会補助による「朝食サポート」を継続して実施しております。学生に朝食を楽しんでもらえるよう内容の工夫を重ねるとともに、朝食の重要性を伝える取り組みも行っております。

本城キャンパス(看護学部)では、実習の送迎を中心に、ボランティア活動やその他の学生活動など、ご寄贈いただいたマイクロバスが幅広く活用されております。

令和六年度は、大型マイクロバスに加え、入学式・学位授与式を彩る紅白幕、体育館にはボトルフレイヤー冷水器、製氷機の設置など、ご寄贈いただきました。多くのご支援に心より感謝申し上げます。

令和七年度は、学生の居場所の充実に目的に、テーブルとベンチをご寄贈いただくことが決定しており、学内環境の向上にご協力を賜っております。

最後に、後援会の理事や会員の皆様からの「ご意見・ご要望」につきましては、事務局としても真摯に受け止め、学生への支援や満足度の向上に向けて、より良い方策を検討・実施してまいります。今後ともぜひ貴重なご意見を寄せていただければ幸いです。

引き続き、後援会会員の皆様のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

事務局 便り